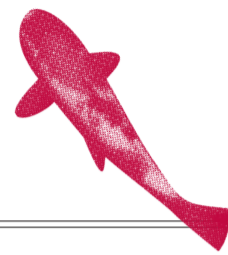


seito & neighborhood journal

ASUKAYAMA ONSEN

せんとうと まち新聞



北区の 記憶あつめ編 Vol.7

飛鳥山温泉

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全23軒(令和5年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有していただくことで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS 飛鳥山温泉紹介/記憶地図/住民かく語りき



露天風呂、サウナ、湯上り処 遠くからでも通いたくなる 地域のくつろぎ拠点

飛鳥山温泉の歴史とその変遷

ばんば商店街(丁R王子駅や都電飛鳥山駅が最寄り)の入口にある「飛鳥山温泉」。1965年に、現店主の小野塚辰幸さんの父が、すでに営業していた銭湯を居抜きで買い取り、屋号もそのまま引き継いだ。最初は当時4歳で、父はそれ以前も荒川区で銭湯を営んでいた。立地が良いところを探した末に、この地に移ることになったんだと思う」と辰幸さん。ちなみに、辰幸さんの両親のルーツはいずれも新潟県燕三条地域。同郷出身で一足先に東京で銭湯を営んでいた長沼三郎さん(上野の「寿湯」や鷺谷の「秋の湯」等を運営する長沼家の創業者)を頼って上京。何軒かの銭湯で修業を積んだ後に独立を果たしたという。



辰幸さんが子供の頃、飛鳥山温泉前での子供の一枚。

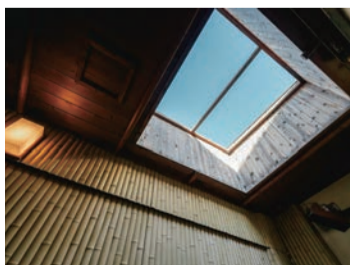
今は1階が銭湯で、2階より上がマンションという造りになっている飛鳥山温泉。かつてはどのような姿だったのか。「昔は宮造りともまではいかないまでも、立派な2階建ての木造建築で、脱衣場の天井が非常に高かった」と辰幸さん。子どもの頃から銭湯の手伝いをしていたそうだが、「番台に座っている時に知り合いが

来ることがあって、気恥ずかしかった」と話す。それもそのはず、当時は常に満員御礼のにぎわいで、脱衣場では籠の合間を縫うように歩かなければいけないほどだったとか。女中もいて、女湯に数人常駐し、赤ん坊の世話などをしていたという。

その後、1986年に建て替えを行い、フロントの前に飲食スペースを設置。カラオケまで設けられており、連日、風呂上がりの食事や酒を楽しむ人で盛り上がった。「パートを2人雇っていたが、時には私だけで銭湯の仕事と、フードドリンク作りをやらなければいけないこともあった。銭湯の営業時間中は常に飲食スペースも稼働していたので、まさに目が回る忙しさだった」と苦笑する。そして、あまりの多忙さと銭湯を訪れる利用客が減少し始めてきたことを受けて、1999年の改装を機に飲食事業からの撤退を決意。だが現在も、そのスペースは広めのロビーになっており、風呂上がりのお客がビールやアイスクリームを味わいながら談笑する憩いの空間になっている。

地域の繋がりが こだわりの銭湯

飛鳥山温泉は地域とも深いつながりを持ってきた。「ばんば商店街の会員になっており、いろんなイベントに参加してきた。昔は何でもあって、活気に満ちた商店街だった。今は店舗数も減り、10年くらい前には瀧野川八幡神社の例大祭に合わせて開催していたカラオケ大会もなくなってしまう。コロナ禍の影響で、さ



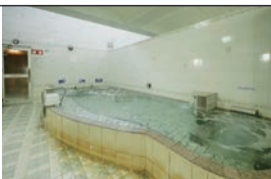
露天風呂からは空を眺めることができ、心地よい風が通り抜ける。



常連に人気の露天風呂は抜群の開放感。

風の通りが気持ち良い 露天風呂

まちの様子は変わったが、飛鳥山温泉は今も昔も地域住民の心と身体を温め続けている。地下1200mから汲み上げている井戸水は肌触りが良いと評判だし、手入れの行き届いた露天風呂は開放感が抜群。遠赤外線サウナの後の外気浴にもうってつけた。ちなみにサウナの温度は約90度で、追加料金が350円とのこと。「お客さんに『さっぱりしたよ』『あったまったよ』と言ってもらえるのが何よりの励み。そのために日々、黙々と仕事に向き合っている。時にはクレームをもらうこともあるけど、それもヒントにしながらもっと多くの人たちに喜んでもらえるようにしていきたい」と辰幸さん。地域とともに歩む銭湯の心意気を見た思いがした。



飛鳥山温泉 東京都北区滝野川2-43-2(都電荒川線「飛鳥山駅」から徒歩5分) 営業時間:14:30~24:00 定休日:火(毎月第1火・水は連休)

フロント 露天風呂 サウナ 水風呂 める湯の浴槽(41度以下) 荷物一時預かり ランドリー

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

八巻畳工業

明治時代からばんば商店街で営まれている八巻畳工業。国産のイ草にこだわり、質の高い技術を今に継承している。写真は三代目が若い頃、店舗前で撮影した一枚。



提供：八巻太一

野原屋酒店

左の写真は昭和30年代半ば頃、花嫁が嫁ぎ先の野原屋酒店に向かって歩いていく様子。右の写真は野原屋酒店前での家族写真。



提供：野口雄司

● 現在も営業中 ● 閉店

ばんば商店街の七の日大特売

ばんば商店街の特売日「七の日大特売」では自転車で通ることもできないほどの大賑わいだったとか。



飛鳥山温泉編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

↑ 王子稲荷神社
↑ 正受院

飛鳥山温泉

マンガ家・松本零士さんが書き下ろした馬のมาสコットキャラクター「うっぴー」が出迎えてくれるばんば商店街の入り口に立地する飛鳥山温泉。写真は飛鳥山温泉の脱衣カゴに入れている赤ちゃん。



提供：小野塚辰幸

瀧野川八幡神社

都営住宅

元々地盤の強い土地で、その昔は東京第一陸軍造兵廠滝野川工場があった。都営住宅が建設された際には、地下駐車場を作ろうとしたものの、地盤が強すぎて断念したのだとか。

都営住宅

カラオケ大会

馬場児童遊園で行われていた町内会のお祭りの中でのカラオケ大会。各商店から選出された人たちが自慢の喉で歌を競っており、大変な盛り上がりだった。飛鳥山温泉の枠から出場した人には、銭湯の常連さんから花束の用意もあったそう。

馬場児童遊園

洋品店

スナック

スナック

王子狐の行列

大晦日の夜に関東各地から集まった狐が、榎の木の下で衣装を改め、王子稲荷神社に参拝したという伝承から始まった名物「王子狐の行列」。住民たちは、狐の化粧をして王子稲荷神社に詣でたあと、そのまま急いで飛鳥山温泉に入っていたという。



住民かく語りき

飛鳥山温泉周辺



Photo / Mari Okamoto

12月17日、記憶集めトークイベントが実施された。これは飛鳥山温泉周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというもの。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。
話題はまず往時のばんば商店街の様子から。かつて、この商店街は大いにぎわっており、特に「七の日大特売」という商店街をあげた特売日はすれ違うのも大変なほどだったという。また、この界隈にはカラオケ好きが多く、瀧野川八幡神社の例大祭で催されていたカラオケ大会は大変な盛り上がりだったそう。一番前に陣取り、応援したり、冷やかししたりするのが楽しかったという声も。
そのほか、「王子狐の行列」の思い出も話題に上がった。これは大晦日に大きな榎の木の下に狐が集い、王子稲荷神社に詣でたという伝承にちなんだ祭事で、今も大晦日には地域住民が狐の衣装をして稲荷に列をなす。「昔は狐の行列に参加した後に飛鳥山温泉に駆け込んで、冷やかしした身体を温めていた。正受院で振る舞われる甘酒やおしるこも楽しみの一つだった」と懐かしそうに話す参加者もいた。
続いて参加者たちは飛鳥山温泉の話で盛り上がり始めた。「おじいちゃんと一緒に飛鳥山温泉に行き、帰りに八百屋でアイス買って食べるのが定番だった」とにやにやと話す参加者もいた。「井戸水をそのまま使った水風呂がとっても良い。温度調整をしていないから季節によって温度が微妙に変わるけど、それがまたたまらない」といったコメントが集まった。
今回は銭湯や商店街はもちろん、地域特有のイベントに関する記憶がたくさん飛び出した。次回も参加者とともに、多くの記憶を集めていきたい。

飛鳥山温泉に遊びに来てね！



家族3世代で訪れ
— 小野塚辰幸さん(飛鳥山温泉2代目店主) —
ばんば商店街にはかつて八百屋や肉屋、魚屋、天ぷら屋、製麺所、酒屋、洋品店、乾物屋、豆腐屋、パン屋、茶屋、焼鳥屋、居酒屋、スナックなどが軒を連ね、うちの他にも銭湯がありました。路地を入ったところにはレンズを製造している工場があって、よくその前でペーゴマをして遊んだものです。今も床屋と居酒屋と焼鳥屋は残っていますが、ほとんどが住宅になってしまいましたね。でも、昭和の建物も結構残っているのので、散歩のしがいはまだあると思います。
昔は風呂なしのアパートがたくさんあったせいも、今も銭湯通いが習慣になっている常連さんが多く、なかには家族3世代で来てくれる人もいます。そういうお客さんたちが寛いでくれている様子を見ると、心底、長くやってきて良かったなと実感しますね。
最近では家族連れや若年層のお客さんも増えていますが、わざわざうちだけのために雑司ヶ谷からバイクで週1、2回通ってくれている方もいて嬉しいですね。ゲストハウスからの紹介で、外国からのお客さんも来てくれますけど、コミュニケーションで困ることもそうないくらい、マネーが良いんです。おかげで、最近はとても穏やかな雰囲気になっています。

わたしのせんととうとまち

— 北区の記憶あつめVol.7 飛鳥山温泉 —

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi



発行：一般社団法人 せんととうとまち

代表理事：栗生はるか 理事：サム・ホルデン / 三文字昌也 / 江口晋太郎 / 牧野徹 メンバー：福井彩香 / 渡邊勢士

編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉 協力：東京都北区浴場組合

北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シティプロモーション推進担当課)にて制作。

一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。